

1 自己評価及び外部評価結果(1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100544		
法人名	メデカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム多治見 1F		
所在地	岐阜県多治見市旭ヶ丘7-9-12		
自己評価作成日	平成21年9月5日	評価結果市町村受理日	平成21年10月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100544&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に応じたレクの活用 異性利用者様のリハビリを兼ねたマージャンが今では日課となり点数計算もご自分でされるようになりました。 全フロアでの利用者の交流及び、スタッフの交流が活発になってきています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたの笑顔のお手伝い」をホームの理念とし、利用者のみならず、家族や職員にとっても明るく楽しいホームづくりを目指している。その実践として、利用者の自主参加型のレクが企画されており、利用者である元喫茶店経営者は、毎週1日、ホーム内に喫茶店を開店する。スロットマシンや「メニュー表」も備わった本格的喫茶店である。麻雀荘は男性4名により毎日営業している。自ら点数計算をし、それを集計して表彰式も行われる。これらは全て、ユニットを縦断しての支援である。 地域との交流も秀逸で、毎週土曜日には小学生が集まってきてペン習字や書道を習う。ホームが教室となり、利用者が講師を務めている。利用者の趣向を熟知した民生委員は、定期的に撮り溜めたビデオをもってきてくれる。利用者を中心に、管理者、職員、家族、地域の一体感が感じられる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を職員全員で確認し、地域の方と要流を深め、皆さんに愛されるホームを目指し、レクリエーションや利用者様の笑顔が見られる可能性のあるイベントを多く計画しています。	「あなたの笑顔のお手伝い」をホームの理念とし、利用者のみならず、家族や職員にとっても明るく楽しいホームづくりを実践している。ホーム内には笑顔があふれており、自由度も高い。	理念の実現のためのツールを「自発的参加のレク」と位置付け、各種のレクを用意している。本人本位の思想も流れており、秀逸。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方や子供さんが自由に遊びに来られます。習字を習いに来られる子供さんもおられます。又、初詣、どんど焼きなどに参加し交流しています。資源回収等に協力し、一緒に活動しています。	地に足のついた地域交流が行われている。地域の小学生が、毎週ペン習字や書道教室に通ってくる。ホームが教室となり、講師陣は利用者で構成されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住んでいるスタッフに働きかけ、子供たちに声をかけ、来ていただいています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討、懸念事項について経過を報告し合い、更なるサービス向上に取り組んでいます。	交番のお巡りさんや施設のオーナー等、多彩なメンバー構成で2ヶ月に1度、運営推進会議が開かれている。ホームからの報告事項や課題について活発な意見交換が行われている。	会議への利用者の参加、会議と外部評価との連動が今後の課題となる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ボランティアさんの紹介を依頼したり、福祉センターの利用の相談にのっていただき、改善への協力を得て、サービスの提供に役立っています。運営推進会議のメンバーの民生委員さん、市職員、区長、お巡りさん、地主さん等に意見交換や協力をしていただいています。	利用者との困難事例が発生した時には、市役所を訪れて担当者と改善策を話し合っている。毎月、2～3回は担当者のもとを訪問しており、緊密な関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、日々の申し送りの中で身体拘束のないケアを意識し、振り返っています。研修などで学習する機会を設け、スタッフ間で統一介護に向け共有しています。	玄関や各ユニットの入り口は解放されている。管理者、職員ともに身体拘束についての意識が高く、利用者の精神的・肉体的自由が護られている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学習する機会はありませんが、現時点では当ホームでは全く無い為、今後も防止に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できるものは学習し、その資料よりミーティング、フロアー会議など全員が学べる機会を設けています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明をしています。利用料金、重度化、看取りについて対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し同意を得ています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけています。又、家族様には行事に参加の折にアンケートを配布し、意見を聴く機会を作っています。又、意見は全スタッフで共有し取り組んでいます。	法人が実施した家族満足度調査の結果を受け、ホームの取り組むべき課題を見つけている。利用者に対する言葉遣い、家族に対する訪問しやすい環境整備、利用者の活動のさらなる充実等がテーマである。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月1回のユニット会で個々の意見を聴くようにしています。 ・毎年、ホーム内研修としてBS法による職員の意見や気づきを把握し、改善に向け反映させています。 ・利用者様の受入れはスタッフと相談し、決定しています。	レク・インストラクターの資格を持つ職員がおり、利用者の好みや能力を考慮したレクを用意している。インストラクターの提案を一つのユニットで試行し、結果の検証の後に全フロアーに展開している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保や年に1回の評価(コンピテンシー)により、給与の見直しを行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修に多くの職員が参加し、またその研修の内容を全職員に報告を行っています。BS法やQCの勉強会や研究会をしており、個々のモチベーションUPとスーパーバイザーによるスーパービジョンに勤めており、スタッフが確実にレベルアップしてきています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流や近くの同業者の方にもイベントの際には交流を深め、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、体験体験入居や見学、訪問などをしていただいています。又、生活暦や困っている事などしっかり聞き取る事で信頼関係を築けるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話聞く中で、納得いくまで一緒に考え、ホームとご家族と協力体制を築き、安心していただけるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の気持ちを大切に、ただちにカンファレンスを開催し、ご本人が必要とされるケアサービス提供を検討しています。尚、当ホームが満室の場合で、早期入居が必要と思われる場合は一緒に探させていただきます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協力しながら和やかに生活ができるよう場面作りや声掛けをしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子、職員の思いを伝え、ご家族と職員の思いが徐々に重なり、ご本人を支えていく為の協力関係を築くことができるよう行っています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(スーパー、公園等)に行ったり、又、ご親戚、同僚など面会、電話連絡あり、職員もそれを理解し支援しています。	ドライブの途中で、昔の思い出の地に巡り合い、しばし車を停めることもある。かつて琴を習っていた利用者が落ち着きを取り戻し、再度教室に通い出した例もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをし、スタッフは調整役となり、支援しています。生活暦よりホーム内に喫茶店を開き、利用者様とスタッフがお話をする場所となっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事に招待したり、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いが出来るよう心掛けています。大きな行事等ある時は声をかけています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦、ご家族の希望、本人の希望を聞き、利用者様本意の生活支援に努めています。日々楽しく生活していただく為の趣味や興味の発見に努め、個々に対応できるようサポートしています。	通常、車いす利用者への外出支援は手薄くなる。他の利用者が外出するのを見て、車いす利用者の表情が曇ったのを管理者は見逃さなかった。それ以来、車いす利用者も一緒に外出支援を受けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りやご家族、知人の訪問時等、少しずつ把握に努め、プロフィール、生活暦のシートを活用し、本人の全体像を知る取組みをしています。現在、喫茶店をオープンしておられる方、麻雀、囲碁、畑等、個々にその方らしく生活しておられ、その支援に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握しています。ケア評価表を毎日チェックする事で利用者様を個別に日々サポートできる体制を整えており、寄り添えるケアの充実を目指しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング等をする事でスタッフ全員がどう関わっていけるかを話し合い、状況変化があれば、モニタリングし、それを基にご本人とご家族と話し合い、現状に即した計画書に変更しています。	利用者、家族の意向を汲み取り、職員は定期的なモニタリングを実施している。しかし、それらの介護計画への反映は薄く、目標やケアの内容への反映、展開が見られなかった。	目標の安易な繰り返しに終始せず、その時々利用者にとっての最重要課題を目標に据えて計画を作成することが、「本人本位」の支援の原点であろう。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状況変化には、個々のケア記録を基に介護計画の見直しをし評価を実施しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、その利用者様にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療措置を受けながら生活の継続をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で暮らしを続けられるよう警察、民生委員さんと意見交換する機会を設けています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前、かかりつけ医の説明をし、往診急変時はホームから受診できる旨をお話しています。馴染みの病院を希望される方は、ご家族対応について、情報を共有できる関係を作っています。歯科診療を週に1回、衛生士の訪問指導は月に1回実施し、治療を行っています。	ほとんどの利用者が、提携医をかかりつけ医として受診支援を受けている。歯科診療に対する支援も手厚く、歯科医や歯科衛生士が頻繁にホームを訪れている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配慮されている為、服薬管理、健康管理を行っています。又、気軽に相談できる関係ができています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、ご家族に了承を得て、面会時に治療内容、退院の目処を事前にお聞きし、ご指導をいただいております。お見舞いを通じてご本人の状況把握、病院関係者への情報を求めています。又、提供もしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末に対する対応方針を定め、ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っています。状態の変化のある毎にご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払っています。又、医師、職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるよう随時意思確認しながら取り組んでいます。	利用開始前から、終末期医療に対するホームの方針(看取りはしない)が家族に伝えられている。利用開始時に、他の介護施設(特養等)への併願を依頼しており、重度化した場合には、主治医の判断と、家族、ホーム側の話し合いで転居時期が決められている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士により、救急救命法の学習や訓練の講習を定期的に受講しています。服薬、年齢、連絡先など救急時対応についてのマニュアルを整備し、常時対応できるようになっており、周知徹底を図っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っています。運営推進会議等を通じ、地域の方への協力体制が得られるよう働きかけています。	夜間想定避難訓練を含め、年間2回の防災訓練を行っている。地域住民への協力の呼びかけを行っているが、参加はまだない。	地域住民の参加については、仕組みづくりや役割分担、呼びかけ方法等を含め、運営推進会議での検討テーマとなる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に職員の意義向上を図ると共に、日々の関わり方について話し合い利用者様の誇り、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っています。	OJTやOFF・JTの研修を通して、利用者のプライバシー保護を徹底している。更衣の際のドア閉め、トイレ介助や入浴介助時の配慮等を学んでいる。女性利用者の入浴介助は、原則同性介助としている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側が決めた事を押し付けるような事はせず複数の選抜枠を提案して一人一人の利用者様が自分で決める場面を作っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、フットマッサージ等、一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えはご本人の意向で決めており、スタッフは見守り、支援が必要な時は手伝うようにしています。又、日頃からマニキュアや毛染め等、ご本人の意向に合わせた取り組みを行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に採った畑の野菜と一緒に調理したりと食事を大切な活動の一つとしています。又、後片付けもスタッフと一緒に行うようにしています。	3ユニットの利用者と職員のほぼ全員が3階のホールに集合して、イベント食(大食事会)の「ほう葉寿司」を堪能した。寿司作りには、女性利用者も積極的に加わったことが報告された。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立で調理を行い、状態を習慣に応じた個人の量、形、硬さに合わせ調理しています。食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有しています。ご自分で飲みたい時にいつでもお茶が飲めるようにカウンターに急須と湯飲みが配置されています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全ての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するよう努めています。義歯の方は毎日ポリドント消毒を実施しています。毎食後の口腔ケアも一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意の無い利用者様にも時間を見計らい誘導する事により、トイレで排泄できるように支援しています。	排泄チェック表の利用と、適切なトイレ誘導の甲斐あって、様々な排泄改善が報告された。失禁回数の減少、利用開始時のリハビリが布パンツへ替わった等々、利用者・家族にとってもうれしい事例が多い。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多目の水分と繊維質の多い食材や乳製品を取り入れています。散歩、家事活動等、身体を動かす機械を適当に設け、自然排便できるよう取り組んでいます。毎日起床時に体に良い水(波動水)を200cc位を目処に飲んでいただいたり、適度な運動を心掛けています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は沐浴剤を入れ、香りや色を楽しんでいただけるように支援しています。又、出来る限り利用者様の希望を取り入れ、なるべく多くの日に入浴できるよう努めています。	原則1日置きの入浴ではあるが、利用者からの希望があったり、リハビリによるかぶれが心配される場合には、毎日入浴するケースもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めています。又、布団乾燥機の使用や布団干し、シーツの交換などで気持ちよく眠りにつける環境を提供しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られる時はいつもよりも詳細な記録をとるようにし、NSや協力医療機関との連携を図れるようにしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯等、得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるような事を見つけ、役割を持っていただいています。又、以前喫茶店をされていた方にはホーム内に喫茶店を作り、行っていける環境を作っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店、買い物、散歩、ドライブ等、日常的に外出する機会を作ったり、本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については予め計画を立て職員の勤務を調節する等しながら行っております。	喫茶店のモーニングを楽しみに外出したり、買い物支援等を行っている。散歩は、一人でも多くの利用者を対象にしようと、ユニットを縦断しての支援である。入口が全て開放されているため、独り外出もあるが、職員が必ず後からついていく。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	馴染みのカバン、財布等をご家族に協力していただき、自分で欲しい物を買って、レジで自分で支払い、おつりをもらう支援を行っています。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、ご本人の希望に応じ電話できる体制が常にあり、又、プライバシーにも留意し、スタッフが気を配っています。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の家での過ごし方、馴染みのもの等知り、情報を活かしながら、居心地よく自分なりの活動がしやすくなるような工夫や配置を利用者様と一緒に演出できる空間作りに勤めています。	2階通路奥には「喫茶さち」があり、毎週金曜日のみ利用者が自主営業する。スロットマシンや飲み物の「メニュー表」もあった。同じフロアーには、麻雀ブースもあり、毎日男性利用者が熱戦(舌戦?)を繰り広げている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席に自由に移動し、仲の良い方同士で過ごす事が出来ます。中庭や外庭にも休憩できる椅子や場所が工夫してあります。			
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を生活スタイルに合わせて用意し、カーペットや座布団、椅子等にも細やかな配慮をしています。	居室にクローゼットが設置されていないせいもあって、ほとんどの部屋に使い込まれたタンスが持ち込まれている。女性利用者の居室の洗面台には、多くの化粧品が取り揃えてあった。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	むやみに物を動かさず馴染みのある言葉を選んで、トイレ、浴室、居室等わかりやすい目印を作成しています。また、本人の状態を把握し、状況に合わせて環境整備に努めています。			

1 自己評価及び外部評価結果(2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100544		
法人名	メデカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム多治見 2F		
所在地	岐阜県多治見市旭ヶ丘7-9-12		
自己評価作成日	平成21年9月5日	評価結果市町村受理日	平成21年10月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100544&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に応じたレクの活用 異性利用者様のリハビリを兼ねたマージャンが今では日課となり点数計算もご自分でされるようになりました。 全フロアでの利用者の交流及び、スタッフの交流が活発になってきています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義を職員全員で確認し、毎朝唱和し、皆さんに愛されるホームを目指し、レクリエーションやイベント等で利用者様の笑顔のお手伝いをしています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方やお子さんが自由に遊びに来られます。習字を習いに来られる子供さんもみえ、初詣、どんど焼き、盆踊りなどに参加し交流しています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住んでいるスタッフに働きかけをし、お子さん達ホームに遊びに来ていただいたり、利用者様にできる範囲で町内清掃やホーム周辺の草刈りなどしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討、懸念事項について経過を報告し合い、更なるサービス向上に取り組んでいます。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議になるべく多く、多岐に亘り出席していただく事で、協力や助言をいただき、サービスの向上に努めています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修で学んでおり、又、フロアーにはスタッフがいつでも目にする事ができるように資料を置いてあります。カンファレンスや学習会でスタッフ間で話し合い、統一介護に努めています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、核フロアーでいつでも目を通せるようになっていきます。又、現時点ではホームでは虐待が無い為、今後も防止に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できるものは学習し、その資料や内容もミーティングやユニット会議などで全員が学ぶ機会を作っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談時や契約時に不安に思われている内容等をお伺いして、ゆっくりとご説明を行い、ご理解を得ています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム厳寒に意見箱を設置しております。又、面会時にスタッフと話したり、運営推進会議に出席していただき、意見を聴く機会を作っています。又、入所時と年2回アンケートを配布し、意見を聞き、改善したりしています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、ユニット会議、リーダー会議の場において発信や提案をしています。又、年に1度、BS法による職員の気づきや介護に対する考え、思いを把握し、職員の意見の反映に努めています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回コンピテンシー評価を行い、その働きに応じた賃金の引き上げなど、やりがいを持って働き、結果が出るような制度になっています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、リーダー研修やスキルアップ研修などがあり、個人が無理なく研修に参加できる機会を設けています。BS法やQCの勉強会や研究会をしており、個々のモチベーションUPとSPバイザーによりSPビジョンに努めており、スタッフが確実にレベルアップしていきます。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと花見に出かけたりし、交流を深めお互いのサービス向上を目指し、情報交換しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と会う機会を作ったり、訴えを聞く機会を作っています。又、利用前に体験入居する機会を作っています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を聞く中で、少しでも不安な部分が軽減されるように一緒に考えたり、入居前にホームを利用していただく機会を作り察していただけるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の気持ちを大切にされたサービスを検討しています。生活暦も生かした支援に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でご自分でできる事はしていただくようにしており、共感し一緒に喜んだり楽しんだりするようにしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事やレクリエーションにはなるべく参加して下さるように面会時に声かけしたり、1ヶ月のレクリエーション予定表を郵送するなど一緒に楽しんでいただけるよう働きかけています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーや近所の美容院を利用したり、近所の方や友人の面会もあり、心おきなく過ごしていただけるよう支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士でももいるんですが、そうでない方同士でもスタッフが間に入ることで良い関係が築けるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者もその後の様子をご家族から伺ったり、相談を受けています。入院された場合でも面会に何度も伺って、様子を知ったり、ご家族の支えになれるようにしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦やご本人、ご家族の希望に添う生活支援に努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を知る為、ご本人やご家族からお話を伺う事で把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング等をする事で、その方にどのように係わり合い支援していくか、スタッフ全員が統一介護に向けて努力しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌、申し送りシートを通して情報の共有を行っています。それから見えてくる支援内容について話し合い実践しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、その利用者様にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療措置を受けながら生活の継続をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方達には行事の参加、花植えなどにも協力していただき、又、地域学校の資源回収などにも参加させていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にホームが依頼している診療所があることを説明し、月2回の往診や緊急時には対応できる事をお伝えしています。又、これまでかかりつけだった医療機関を利用される場合でも情報を共有できるようにしています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気軽に相談できる関係ができており、NSとかかりつけ医の連携もしっかりとしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、病院への情報提供を行い、ご家族様に了承を得て、面会時お見舞いなどを通して、治療内容や状態把握、退院の目処など病院関係者へ情報を求めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時、医療行為が発生しなければ、出来る限りホームにて過ごしていただけるよう、支援体制を整えています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士による救急救命法学習や訓練の対応、指導講習を受講し、定期的に訓練を行っています。服薬、年齢、連絡先など救急時対応についてのマニュアルを整備し、常時対応できるようになっており、周知徹底を図っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っています。運営推進会議等を通し、地域の方への協力体制が得られるよう働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけるような声かけは行わないようにしています。記録や書類等をご家族以外にお見せしない、見られない配慮をしています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が楽しく自発的に参加される行事を計画し、参加して頂く為に生活の中で散歩や家事、畑の手入れ等で体力維持に努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、フットマッサージ等、一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しています。出来る限り、ご本人のペースに合わせて物事を行っています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は女性の方は、近所的美容室を利用いただいています。又、外出時は普段よりおしゃれして出かけていただき、気持ちの変化をつけるようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗や箸、湯のみなど本人専用の物を使用してもらっています。又、出来る方にはスタッフと一緒に配膳したり、洗い物や食材の下準備を出来る時にいただいています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立で調理を行っています。形状や量も個人に合わせて調理しています。毎朝起床時に冷水を飲んでいただいています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全ての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するよう努めています。義歯の方は毎日ポリドント消毒を実施しています。毎食後の口腔ケアも一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンをモニタリングし、個々に認識し、羞恥心に配慮しながら声かけ誘導を行っています。排泄モニターにより個別に対応することで失禁や放尿がなくなるよう支援し、改善されています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいただいたり、水分を多く摂っていただくようしています。便秘傾向の方には排泄チェック表にて確認し、水分摂取量への配慮を行っています。起床時に体に良い水を200cc位を目処に飲んでいただいたり、適度な運動を心掛けています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を取り入れてなるべく多くの日に入浴していただいています。又、入浴剤(花びら、果物の皮)等を入れ香りや色を楽しんでいただけるようしています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯はくつすり休んでいただけるよう日中の活動や室温に配慮し、気持ちよく眠りにつける環境を提供できるよう努めています。個々の布団を週2回乾燥機を使い、気持ちよく安眠できるように支援しています。又、天気の良い日は可能な限り、布団干しに努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の種類、効用、服作用からくるリスクを把握し、早期に異常を発見できるよう努めています。又、誤薬の防止として複数による確認を行い、誤薬の際にはかかりつけ医に連絡、指示を仰いでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯モップがけ、雑巾がけや洗い物、調理の盛り付け等、その方にできる事を見つけて、役割を持っていただくよう支援しています。体力や健康状態を把握しながら自立支援と共に楽しみのある生活を過ごしていただける支援を工夫できるよう更に努めます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物がしたい、喫茶店、外食に行きたいとの希望やほしいものがあるときなど、天候にも配慮しながら、なるべくスタッフが付き添い、希望に添うよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	馴染みのカバン、財布等をご家族に協力していただき、自分で欲しい物を買って、レジで自分で支払い、おつりをもらう支援を行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、ご本人の希望があれば電話をしていただいています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけ、家具の配置は利用者様と一緒に考え、利用者様のご自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるよう工夫しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、廊下億のベンチなど自由に移動し、仲の良い方同士で過ごす事ができるようにしています。又、戸外に中庭や藤棚の下に椅子やベンチがあり花を見ながらゆっくり休める居場所があります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んでいただいている方もあれば、認知度やADLの状態に応じて、ご家族と相談しベットなど変更したり、レイアウトを考えたりしています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	むやみに物を移動させない、馴染みのある言葉を選んで、トイレ、浴室、居室等わかりやすい目印を作成し、利用者様の目線に合わせ取り付けてあります。		

1 自己評価及び外部評価結果(3F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100544		
法人名	メデカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム多治見 3F		
所在地	岐阜県多治見市旭ヶ丘7-9-12		
自己評価作成日	平成21年9月5日	評価結果市町村受理日	平成21年10月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100544&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に応じたレクの活用 異性利用者様のリハビリを兼ねたマージャンが今では日課となり点数計算もご自分でされるようになりました。 全フロアでの利用者の交流及び、スタッフの交流が活発になってきています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を朝の申し送り時に唱和し、地域の人々との交流を深め、地域の中で利用者様の笑顔を活かす努力をしています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方やお子様はホームを訪れ、ペン習字、毛筆を習われたり、資源回収等に協力し、一緒に活動しています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方との挨拶が気軽にできており、町内清掃、草刈、資源回収など地域行事に参加したりしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議については、ホーム長、各ユニットリーダーが出席し、指摘された点などは、リーダー会議、フロア会議を通し、ユニットの取り組み等に活かしています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ボランティアさんの紹介を依頼したり、福祉センターの利用の相談にのっていただき、サービスの提供に役立てています。運営推進会議のメンバーの民生委員さん、市職員、区長、お巡りさん、地主さん等に意見交換や協力をしていただいています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、日々の申し送りの中で身体拘束のないケアを意識し、振り返っています。ユニット会議や額集会で学び、スタッフ間で統一介護に向けて意識しています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為を発見時、ユニットリーダー、ホーム長に報告し、その対応を全スタッフで共有するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できるものは学習し、その資料よりミーティング、フロアー会議など全員が学べる機会を設けています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時のご説明含め、契約前の面談や契約時に不安に思われる事などお聞きし、ゆっくりご説明を行い、ご理解を得ています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーション時などの会話中より、不満など見受けられた時は、個別対応し、可能な限り改善に向け、反映させています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の職員の気持ちや気づきを把握する為、BS法によるホーム内研究として実施し、意見の反映に努めています。利用者様の受入れ等はスタッフと相談し、決定しております。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度、資格手当、優秀ホーム表彰、優秀管理者表彰制度があり、向上心のある職員が働き甲斐を持てる環境作りに努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	BS法やQCの勉強会や研究会をしており、個々のモチベーションUPとスーパーバイザーによるスーパービジョンに勤めており、スタッフが確実にレベルアップしてきています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと花見交流など、利用者様、職員共々交流を深めています。又、職員同士のサービス向上を目指し情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントの際、事前にケアマネやご家族より情報を得、ご本人に聞かない方が良い事柄なども周知し、再度ご本人から生活歴や好きな事、大切にしている習慣、困っている事など、しっかり聞き取る事で信頼関係を築けるよう努めています。又、体験入居や見学訪問等していただいております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話や聞く中で、納得いくまで一緒に考えたり、ホームを利用していただき、安心していただけるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の気持ちを大切に、ただちにカンファレンス、ケアプラン立案時サービス提供を検討しています。生活歴を知る事で、ご本人やご家族への出来る限りの支援に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に出来る事を引き出すお手伝いをしながら、共に寄り添い行動を共にする事で、職員も教えられ喜怒哀楽を共感し、共に支え合う関係を大切にしています。自立支援の基本的な支援をする中で共に生活をする家族として、ゆったりのんびりと共感できる生活創出の支援に努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事やレクリエーションになるべく参加していただけるよう声掛けし、利用者様の様子を常に知っていただき、共に支援での協力ができるよう蜜にコミュニケーションをとっています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーへの買い物や、公園へ他者で行ったり、昔の食べ物を探して食べたり、友人や親戚の面会や電話連絡もあり、職員もその事を理解し、支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を楽しんだり、レクと一緒に楽しむ相手やトラブルを起こしてしまう相手を把握し、支えあえるよう努めています。又、孤立しやすい方への声かけで共に楽しい時間を過ごしていただけるよう常に気配りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からその後の様子を聞いたり、訪問したり、相談を受けたりしています。入院された場合など根気良く面会に行く事で、様子を知ったり、ご家族の心の支えになっていたりしています。(介護ベッドの調達、衣類等の配慮等、自主的にサポートしています)		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦やご家族の希望などから、利用者様本意の生活支援に努めています。一人一人の思いを交流や会話から引き出し叶える努力をしています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにより更に生活暦などを知るためにご本人やご家族の協力を得て、把握に努めています。現在、毛筆教室開設、スロット、麻雀、カラオケ教室、料理、洗濯等、その方らしく生活しておられ、その支援に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別にケア評価表を作成しておりケアプランに添って現状把握をしっかりとできるように努めています。毎日の健康状態を日動リーダがしっかりと把握する事で、ご本人がしたい事をしていただけるよう支援に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が自分らしく暮らせるように、BS法の活用やホーム内研究をする事で、ご本人へ寄り添える介護や笑顔引き出しへの介護に努め、職員間の統一介護に努めています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・モニタリングシート・ケアプラン評価表を基にケアカンファレンスを行い、計画の見直しに活用しています。ケア評価表の日々充実を図る事で介護計画を意識し、ご本人に寄り添えるケアに努める事ができています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望に応じ、通院介助したり、書道教室・地域住民にホームを開放し、多機能背を活かし、柔軟に支援しています。又、個別の買い物希望があれば、職員が同行し寄り添っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方達には行事の参加、花植えなどにも協力していただき、又、地域学校の資源回収などにも参加しています。運営推進会議・消防訓練・ホーム行事に参加していただく事で、理解や協力が得られるよう努めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前、かかりつけ医の説明をし、往診や急変時はホームから受診できる旨をお話しています。馴染みの病院を希望される方は、ご家族対応で受診していただき、医療機関と薬や身体状況について、情報を共有できる関係を作っています。連携医の月2回の往診があり、常に気軽に相談指導受けられるような関係にあります。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NSや薬剤師さんに会議やカンファレンスに参加していただき、知識や相談・アドバイス等の指導を得ています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにし、又、家族とも情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結び付けています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の医療を必要と予測される利用者様については職員で話し合っているが、終末期のあり方についてご家族の意向を確認させていただいています。常時医療行為が発生しなければ、出来る限りホームで過ごしていただけるよう支援体制を整えています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士による、救急救命法の学習や訓練等の指導講習を受講し、定期的に訓練を行っています。服薬、年齢、連絡先など、個人情報緊急持ち出し資料が作っており、常時対応できるようになっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	押し付けな言葉掛けをしない、自己決定できる声かけをし自尊心を損ねない態度など配慮し、管理者・職員共に徹底しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声かけ、意思表示が困難な方には表情を読み取り、ささいな事でもご本人が決める場面を作るよう心掛けています。又、体力維持の為、体操、散歩、家事、畑仕事など行っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、外出、買い物、フットマッサージ、カラオケ得等、ご本人がその日に希望されている事に出来る限りより添えるように努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはお化粧されたり、着替えをされたりとお洒落を楽しむ支援をしています。又、移動美容室を利用されたり、近隣の美容師さんをお願いして部分的な毛染めをされたりする方もおられます。白髪を気にされておられる方はホームで本人の希望する色に染めておられます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備のお手伝いやそれぞれの役割を持っていただき、楽しく生き生きと生活できるように支援しています。又、食事時には職員と会話を交え楽しい雰囲気にも努めています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立で調理を行い、形状・硬さ・量など個人に合わせ調整しています。食事や水分摂取量も毎日チェックし、栄養摂取量を把握し、職員が情報を共有しています。起床時に波動水を200cc程飲んでいきます。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全ての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するよう努めています。義歯の方は毎日ボリデント消毒を実施しています。毎食後の口腔ケアも一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導する事でトイレでの排泄を促しています。又、排泄チェック表により排泄モニタリングし、失禁される前に羞恥心に配慮し、声掛け誘導しています。水分との関連をDrと相談しながら日々行っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳、冷水等飲んで頂いたり、繊維質の多い食品を提供し、朝食後のトイレ誘導行うなど薬に頼らず予防を含め、ケアに努めています。又、日中体を動かし自然に排便できるように取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は沐浴剤を入れたりして香りや色を楽しんでいただけるように支援しています。又、出来る限り利用者様の希望を取り入れ、なるべく多くの日に入浴していただいています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯はゆっくり休んでいただけるよう日中の活動や気温に配慮し、気持ちよく眠りにつける環境を提供できるよう努めています。(天気の良い日は外に干し、布団乾燥機、シーツの洗濯、パジャマは毎日洗濯しています。)		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケースに整理し、どのような薬を飲んでいるのか、又、薬の副作用から来るリスクを把握し、早期に異常を発見できるよう努めています。内服拒否、誤薬の際にはかかりつけ医に電話にて指示を仰いでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道教室、麻雀、パチスロ、カラオケ喫茶、買い物、台所仕事等、本人様が楽しみにしておられる事を支援し、活動を広げていけるようサポートしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が行きたいと思う場所への外出レクはあらかじめ計画を立て、職員の勤務調整を行ったり、場合によっては家族の協力を依頼したりとご家族の協力のもと行っています。居室に閉じこもりがちの方には個別にお誘いしています。天候や健康状態が良ければ、その都度対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、外出レクではお店の方にご協力いただいて皆様に財布や鞆をお渡しし、ご自分で支払っていただいております。自分の財布からお金を出す事で、社会性の維持につなげています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、ご本人の希望があれば電話をしていただいております。毎年、年賀状と暑中見舞いが出せるよう支援を欠かさず行い、利用者様の希望に応じて手紙を出せるよう支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の家での過ごし方、馴染みのもの等知り、情報を活かしながら、居心地よく自分なりの活動がしやすくなるような工夫や配置を利用者様と一緒に演出できる空間作りに勤めています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの飾り付けやソファの位置等、利用者様と共に考え、居心地の良い空間で自由に移動でき、戸外には中庭や藤棚等があり、涼を感じながら花を見てゆっくり休憩できる居場所作りを工夫してあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子等、馴染みの家具を持ち込んでいただいている方もあります。又、認知症の進行や転倒リスクの高い方には障害となるため、ご家族と相談の上、持ち帰っていただいた方もあります。寂しい空間にならないようご家族さんの写真を課るなど工夫しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境のあらゆる所に利用者様の自立を意識した工夫をしています。フロアには段差もなく廊下やトイレには手すりがあり、安全に移動できるように配慮しています。		